

教員や教育研究 生徒が成果披露

半田東高卒業発表会

半田市の半田東高校教育コースで学ぶ三年生による卒業研究発表会が十四日、日本福祉大半田キャンパス(半田市東生見町)であった。十七人の生徒が、教員や教育に関して各自の研究の成果を披露した。

同コースの生徒は、半田東高と日福大、市教委が締結する協定に基づいて市内の小学校で教師の仕事を学ぶ体験実習をしたり、大学の教員による講義を受けたりしている。

発表会もその一環で、二年生の時には大学生の卒業論文発表を見学。今年五月には研究の構想段階で大学の教員から助言をもらった。その後もメールなどでやりとりをし、研究を完成に近づけていった。

研究成果を発表する半田東高の生徒＝半田市東生見町の日本福祉大半田キャンパスで



この日の発表では、教員の長時間労働や子どもの貧困と教育格差、外国語教育といった社会的にも注目されているテーマが多数を占めた。質疑応答でも、それぞれが自分の意見をしっかりと述べた。

鈴川慶光・市教育長は講評で「発表の質が年々高くなってきている。皆さんにはぜひ半田市で教員になってほしい」と話した。